

#### 14. 環境省によるレッドリスト見直し（平成 18 年度）について

平成 18 年 12 月 22 日、環境省が鳥類、爬虫類、両生類、その他無脊椎動物についてのレッドリストの見直し結果を発表しました。その結果、これまで大山ダムでの現地調査において確認されていた種のうち、鳥類 2 種（ヨシゴイ、オシドリ）及び両生類 2 種（ブチサンショウウオ、アカハライモリ）が新たにレッドリストに加われました。

ブチサンショウウオ（サンショウウオ科）については、既に大山ダム環境対策懇談会の指導・助言により、大山ダムにおける「重要な種」として影響評価を行い、環境保全対策も実施してきました。

オシドリ（カモ科）については、平成 13 年版の「レッドデータブックおおいと～大分県の絶滅のおそれのある野生生物～」に「絶滅危惧Ⅱ類」として掲載されていますが、大山ダム環境対策懇談会での審議の結果、「ダム完成後には生息に適した環境が創造される」という理由により、「重要な種」として選定していませんでした。また、近傍のダム貯水池においても同種の生息が確認されています。

ヨシゴイ（サギ科）については、同様に平成 13 年度版の「レッドデータブックおおいと～大分県の絶滅のおそれのある野生生物～」において「絶滅危惧ⅠB類」として掲載されていますが、「渡りの途中に一過性に確認されたものであり、確認されたこと自体が日田地方の自然環境を反映したものではない」との理由により、「重要な種」として選定していませんでした。

アカハライモリ（イモリ科）については、現地調査で生息が確認されていますが、事業による影響の評価はこれまで実施していません。

今後、12 月に発表された鳥類や両生類等以外に、哺乳類、昆虫類、魚類、植物等についてもレッドリストの見直し結果が発表される予定です。上記の種を含め、見直しにより追加された種については、大山ダム環境対策懇談会の指導・助言を得ながら、必要な追加調査や環境保全対策などを検討していきます。

（平成 19 年 3 月 5 日現在）